

カンキツ 接ぎ木の裏ワザ！?
**カッターナイフで
夏の剥ぎ接ぎ**

ながたに
和歌山・長谷光浩



3～4月は加工の繁忙期

はじめまして、紀伊路屋（長谷農園）の長谷光浩です。

私は和歌山県有田郡広川町でミカン農家を営む傍ら、ミカンジュースやジヤム、カンキツ類の果皮粉末などを開発、加工、販売する6次産業化に取り組んでいます。

カンキツ類の品種の流行は、かつてのハッサク、イヨカン、ネーブル、宮本早生、楠本早生など、およそ10年サイクルで変わっていると感じます。現在、当園では花粉症の人にもよいとされるジャバラが

大変な人気です。

ネライ目の品種を増やしたり新品種を試すために、毎年50～100本の樹を高接ぎ（切り接ぎ）更新してきました。ところが、切り

接ぎの適期とされる3～4



筆者（60歳）。ジャバラ、レモン、ハッサク、温州ミカンなどのカンキツ2haを栽培

樹が弱らないよう分施する

当園では、カンキツ類の収穫が11月から始まり2月で終わりますが、続く2～4月は1次加工・製品化・販売と加工部門の繁忙期が続き、倉庫や加工場での作業に追われます。

そのため接ぎ木作業が少しずつ後回しになつていき、ここ数年は6～7月に、梅雨の晴れ間をぬつて作業するようになりました。ちょうど前年の貯蔵養分が消費されてしまった時期ではあ

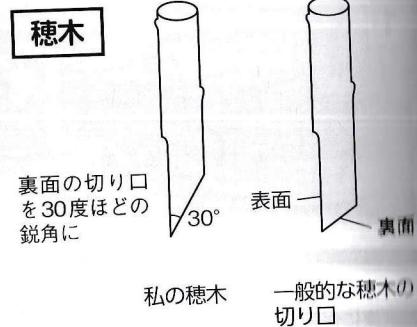
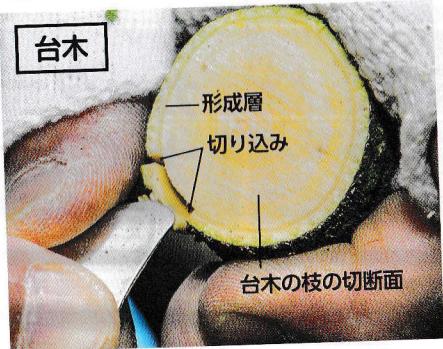
春じゃなくても活着良好 夏に高接ぎ！

いろんな品種を試したいけど、
高接ぎって難しそうだし、春は忙しいし……。
いえいえ、夏でもできるし、手軽な道具でOKです！



（赤松富仁撮影）

剥ぎ接ぎは裏から活着が進む



肥でJA有田のミカン配合肥料をチツソ成分で10～13kg/10aやつておき、6～9月にかけて月1回の間隔でチツソ3kg程度ずつ分施しています。根に負担をかけないよう必要な分を少しづつ吸わせるイメージです。

また、梅雨が明けると陽射しが強くなり、台木の樹皮が日焼けするので、ホワイトンパウダーを用意して、接ぎ木後すぐに台木に塗つてあげます。

穂木の裏面から活着が進む

ところで、私は地元の農業高校の柑橘園芸科出身です。接ぎ木の仕方も、通り習いましたが、「成功させねば

りますが、問題なく接げています。とはいっても、高接ぎはカンキツの樹にとっては大手術かと思います。養水分をしっかり引き上げ、樹が弱らないように、元の樹の力枝を残しておき、肥料も多めに与えておきます。

温州ミカンの場合は、10～11月の秋

と緊張して手が小刻みに震えてしま

い、「お前は接ぎ木に向いてない」といわれたこともあります。

しかし、接ぎ木名人である私の叔父や地域のさまざまな方から教えてもら

い、自分に合う部分を取り入れること

で、今ではほぼ100%成功するよう

になりました。

活着率が上がった一番の要因は、趣味的にカンキツを育てている兼業農家の知人から教わった手法を取り入れたことでした。左ページ上の写真のように、台木の側面に2本の切り込みを入れることで、台木の皮をペロンとめくれることで、台木の皮をペロンとめく

ります。すると、形成層で皮が引き裂かれ、台木の内側・外皮側の両面で剥き出しになつた形成層が、穂木の形成層としつかり合わさるのです。

調べてみると、皮の硬いクリなどで

も「剥ぎ接ぎ」として実践されている方法のようです。外皮は樹液の流れている時期でないと、剥けないので

カッターナイフで十分できる

当初は片刃や両刃の接ぎ木包丁を使つて剥ぎ接ぎしていました。しかし、接ぎ木包丁は切れ味がとても重要で、

毎日の包丁研ぎにずいぶん時間をとられました。とくにシーズン初めはサビ

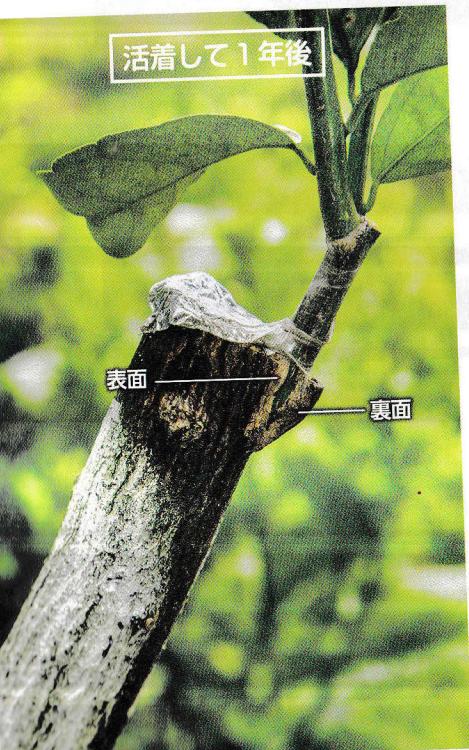
がたりで包丁が切れない

で、「夏の接ぎ木」に向くやり方でもあると思います。

活着後のようすを見てみると、左ペ

ージ下の写真のように穂木の表面（台木の内側）からだけでなく、裏面（台木の外皮側）からもぐんぐん活着が進み、外側から包み込むようにカルスが巻いています。そのため、穂木の裏面

は一般的な方法よりも鋭角に削り、接触面をなるべく広くするのがポイントです（左上図）。裏からも活着させる……まさに接ぎ木の「裏ワザ」ですね。活着後の芽の伸びもとてもよいと感じます。



剥ぎ接ぎは、台木を深く切り込む必要がないので、カッターナイフとの相性もよいと感じます。特別な道具も技術も必要なく、接ぎ木が苦手な方でも失敗なくできるはず。この方法で、カンキツ農家の皆さまがムリなく品種更新でき、儲かる農業経営の一助となれば幸いです。

（和歌山県広川町）

台木を切る

刈り払い機のチップソーでだいたいの高さまで切る。チェンソーより枝葉を細かく刻めて便利（枝葉はそのまま土に還す）



チェンソーで目標の高さまで低く切る



切り終えた台木
養水分を引っ張る力枝も1~2年残しておこう（2年後に切る）

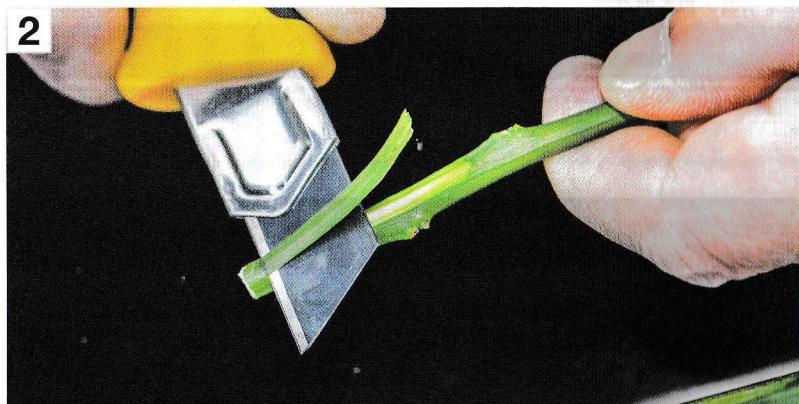
穂木を準備する



豊饒品種の穂木を購入。新聞紙とビニールに包んだ状態で冷蔵庫に保管



ノコギリで切って接ぎ木面をきれいに出す



表面を削る。穂木は表面の切り口より
上に2芽残した長さでカット



取材時の動画が、ルーラル電子図書館でご覧になれます。
「編集部取材ビデオ」から。
<http://lib.ruralnet.or.jp/video/>



カッターナイフで剥ぎ接ぎ

夏に高接ぎ！



夏に接ぎ木して活着。翌年5月に芽が吹いた頃のようす

春に接ぎ木すると春芽、夏芽、秋芽と出て、両手で示した程度の長さになるが、夏の接ぎ木では夏芽と秋芽しか出ず、新梢の背丈が短い。台風にも強いので、新梢を支柱で固定する必要がない。なお、夏芽と秋芽は矢印の位置で摘心した。その後は芽かきせずに枝数を増やす



接ぎ木後、
1年
たつた樹

剥ぎ接ぎをする

上から見たところ。
形成層まで届くよう
に切り込む



9



カッターナイフ本体のお尻に
ついている爪やマイナスドライバーを使って皮を剥ぐ

爪



台木の側面に切れ目を2本入れる

10



穂木を差し込み、表面、裏面を台木の形成層（台木側・外皮側の両面にある）にピッタリくっつける

11



ビニールテープで台木部分をガッチリ留めて、切り口を木工用ボンドとアルミホイル（あるいは接ぎ木保護フィルム）で覆う。直径5cm以上の枝なら2カ所で接ぐ

(172)